

種別	明治四十四年		大正元年		同二年		同三年		同四年		同五年		同六年		同七年		同八年		同九年		大正八年ニ比シ増減
	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	
京畿道	一	四	六	九	八	三	五	二	二	三	三	三	二	二	二	二	一	一	一	一	二
忠清北道	一	五	六	九	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二
忠清南道	一	八	七	六	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	一
全羅北道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全羅南道	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
慶尙北道	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
慶尙南道	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
黄海道	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
平安南道	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
平安北道	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一

種別	明治四十四年		大正元年		同二年		同三年		同四年		同五年		同六年		同七年		同八年		同九年		大正八年ニ比シ増減
	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	稼行	休業	
江原道	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	七	二	二
咸鏡南道	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
咸鏡北道	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
合計	一〇	五	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	一七	七	四

三 鑛 産

大正九年ニ於ケル鑛産價額ハ二千四百二十萬四千六百八十八圓ニシテ前年ニ比シ百二十萬九千八百二十二圓(四分七厘強)ヲ減少セリ而シテ右鑛産價額ノ國人別割合ヲ見ルニ内地人七割九分九厘朝鮮人四厘外國人一割九分七厘ナリ左ニ國人別ニ依ル鑛産價額ノ累年比較ヲ示ス

區別	明治四十四年		大正元年		同二年		同三年		同四年		同五年		同六年		同七年		同八年		同九年		大正八年ニ比シ増減
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	
内地人	一,四一五,五九四	一,五七九,三三三	一,四〇四,〇七四	一,四三三,五七四	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇
朝鮮人	二,六〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	二,七〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇
外國人	六,一五五,五九四	四,四八〇,〇〇〇	八,九七五,五九四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	八,五三三,五七四	一〇
合計	一〇,一二一,一八八	九,五五九,三三三	一〇,一〇四,〇七四	一〇,二六七,〇七四	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇

同年中ニ於ケル鑛産種類別鑛産額ヲ見ルニ鉄鑛ノ八百二十六萬六千八百二十三圓ヲ最多トシ金、鐵鑛、石炭、沈鑛等之ニ亞ク

區別	明治四十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	大正八年ニ比シテ
水鏡	3		3,124	2,854	1,544	3,333	3,807	5,177	1,948	2,694	2,994
鉛鏡											
錫鏡											
砒鏡											
雲母鏡											
黑鉛鏡	26,055	33,811	35,833	15,684	23,077	39,779	1,001,994	59,447	3,248,777	3,000,447	2,771
石炭鏡	5,947,777	5,578,813	5,702,294	5,101,732	9,947,736	8,943,333	11,449,333	15,258,833	21,348,333	3,977,333	4,950
石油鏡											
高嶺土鏡											
矽砂鏡	6,185,994	6,853,333	8,947,556	8,533,480	5,555,666	7,887,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	1,398,833
計											

同年中ニ於ケル道別鑛產價額ヲ見ルニ黃海道ノ一千三百四十五萬七千八百圓ヲ最多トシ平安南道、平安北道、咸鏡南道及京畿道等之ニ亞ク

區別	明治四十四年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	大正八年ニ比シテ
京畿道	101,733	1,989	1,989	3,333	3,333	1,899	9,999	4,999	4,999	2,999	2,999
忠清北道	26,055	33,811	35,833	15,684	23,077	39,779	1,001,994	59,447	3,248,777	3,000,447	2,771
忠清南道											
全羅北道											
全羅南道											
慶尙北道											
慶尙南道											
黃海道	1,271,987	1,399,999	1,599,999	1,799,999	2,799,999	3,799,999	4,799,999	5,799,999	6,799,999	7,799,999	1,599,999
平安南道	9,999,999	10,999,999	11,999,999	12,999,999	13,999,999	14,999,999	15,999,999	16,999,999	17,999,999	18,999,999	1,999,999
計											

同年中ニ於ケル道別鑛種別鑛產價額表ヲ示セハ左ノ如シ

區別	京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	南道	北道	南道	海平南	海平北	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	計
金	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	2,227	7,500,833
砂金	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	23,227	72,727,227
銀	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	208,227	2,082,227
粗銅	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	32,227
粗鉛	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	3,227	32,227
亞鉛	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	8,227	82,227
鐵	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	270,000
水鏡														
鉛鏡														
錫鏡														
砒鏡														
雲母鏡														
高嶺土鏡														
矽砂鏡														
計														

右ニ對スル鑛產價額ヲ掲クレハ左ノ如シ

品名	京畿	忠北	忠南	全北	全南	慶北	慶南	黄海	海平	南平	北平	江原	咸南	咸北	計
金	10,570	12,740	9,536	4	4	1,335	10,154	25,694	8,057	3,911	2,994	1,523	4,133	3,634	75,355
砂金	45,035	1,844	4,333			2,554	3,646	3,072	7,646	13,553	1,775	4,133	4,133	4,133	83,000
金銀鑛	3,846	1,844	3,371			1,554	3,646	3,072	7,646	13,553	1,775	4,133	4,133	4,133	30,000
汰鑛	4,600														4,600
銀															
粗銅															
鉛															
粗鉛															
亞鉛															
鐵鑛	4,833														4,833
水鉛鑛															
鉛	1,877														1,877
錳															
石炭		17,555													17,555
高嶺土															
砂															
計	770,644	3,949	1,444			4,566	4,566	4,566	4,566	4,566	4,566	4,566	4,566	4,566	780,000

四 主要鑛業ノ概況

大正九年中ニ於ケル朝鮮鑛業ハ年來ノ物價、勞銀昇騰ニ依リ經營上著シキ打撃ヲ蒙リタルモ、黒鉛(土狀黒鉛)石炭ニ在リテハ逐年多少ノ生産増加ヲ示セリ而シテ大正九年中鑛產總額ノ前年ニ比シ著シク減少シタルハ現時一般鑛業ノ不振ト鑛產物價格ノ低落トニ基因スルモノニシテ又已ムヲ得サル所ナルヘシ以下主要鑛業概況ヲ略述スヘシ

金鑛業 朝鮮鑛產物中最多數ノ經營者ヲ有スルモノハ金鑛業ニシテ明治四十二年韓國併合以來内地鑛業家ニシテ鮮内ノ金山ニ着眼スルモノ増加シ漸次發展ヲ來タシ大正五年ニ於テ最モ盛況ヲ見タルモ最近經濟界ノ變調ニ伴ヒテ著シク沈靜シ往年朝鮮内各地ニ於テ操業セラレタル小規模ノ金鑛山ハ經營次第ニ困難トナリ休山又ハ廢鑛スルノ已ムナキ状態ニ陥リ尙從來相當規模ノ設備ニ依リ操業セル主要鑛山ト雖一部事業ヲ縮小セルノ状態ニ在リ然レトモ之等ハ戰後ニ於ケル一時的現象ニシテ常態ナリト見ル能ハサルヘク朝鮮ニ於ケル金鑛業ハ尙遠キ將來ヲ有スルモノト謂フヘシ而シテ大正九年中移出セラレタル金地金ハ三百五十八萬圓金鑛石ハ七十七萬餘圓汰鑛ハ百五十一萬餘圓ニシテ孰レモ大正八年ニ比シ減少セリ

附砂金鑛業 砂金ハ朝鮮全道到ル處ニ產出スレトモ其ノ採取方法極メテ幼稚ナリシカ大正六年末稷山鑛山ニ於テ本邦唯一ノ砂金浚渫機ヲ使用シ大規模ノ採金ヲ見ルニ至リ、茲ニ朝鮮砂金鑛業界ニ一新機軸ヲ開キ頗ル盛況ヲ呈シタルモ一般砂金採取事業ハ勞銀ノ昂騰經濟界ノ影響ヲ受ケ鑛區數大正八年ニ於テ二百七十七ナリシモノ同九年ニ於テ二百二十三ニ減少セリ

鐵鑛業 大戰後市價暴落ニ依リ戰時中勃興セル小規模ノ製鐵所ハ悉ク事業ヲ休止シ三菱兼二浦製鐵所亦手控ヘテ爲スニ至レリ、然レトモ鐵山ノ多クハ内地製鐵業者ニ對シ鑛石供給ノ地位ニ在リテハ尙相當利潤ヲ以テ操業ヲ繼續シツツアリ而

慶尙南道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
五五五	昌隆鑛山	鉛鑛	昌原郡北面	勝岡田字吉	九四一	五六七	院田炭鑛組合	石炭	泗川郡昆明面	佐々木芳松	九三一
三五七	島木月鑛山	金銀鑛	統營郡山陽面	木月正三	九三六	同	同	同	泗川郡昆明面	同	同

黃海道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
五五七	物開鑛山	鐵鑛	平山郡安城面	百岡啓治郎	九二六	五五八	黃州鑛業所	鐵鑛	黃州郡天柱面	朝鮮鐵山株式會社	九三三
五五九	北一金鑛	金鑛	西峯面新岩面	李相壹	九三七	五五九	安岳出張所	雲母	安岳郡安谷面	朝鮮鐵山株式會社	九六一

平安南道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
五六一	通川炭鑛	石炭	通川郡順嶺面	高山主計	九一三	三三三	价川鐵山	鐵	价川郡中西面	株式會社	九三三

江原道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
五六四	通川炭鑛	石炭	通川郡順嶺面	高山主計	九一三						

咸鏡南道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
五五三	柵田鑛山	銅鑛	新元與郡	林普圭	九四九						

六 事業ヲ擴張セリ鑛山

平安南道

自第一三三 至第一三七	大寶炭鑛	石炭	大同郡大寶面	三菱製鐵株式會社		番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日

咸鏡南道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
一〇六	利原鐵山	鐵	利原郡南面	利原鐵山株式會社		一〇五	寶岩鐵山	鐵	北青郡居山面	麻生音波	

咸鏡北道

番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日	番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	著手年月日
二七〇	生氣鑛業所	高嶺土	鏡城郡梧村面	西脇濟三郎							

事業擴張セル鑛山概況

大寶炭礦 石炭 位 置 平安南道大同郡大寶面 鑛業權者 三菱製鐵株式會社

本炭坑ノ作業個所ヲ分チテ龍仁洞、安靜同ノ二トス龍仁洞坑ニ於テハ探礦、探礦共ニ行ヒ安靜洞坑ニ於テハ專ラ探礦作業ノミヲナセリ

大正九年中ニ於テ

- (イ) 龍仁洞第一坑ニ五十馬力電氣捲揚機ヲ据付ケ從來使用シ來リシ三十馬力蒸氣捲揚機ヲ其ノ豫備トセリ
- (ロ) 龍仁洞第二坑ニハ三十五馬力電氣捲揚機ノミヲ据付ケアリシヲ更ニ電動機、變壓機ヲ備付ケ且之等機械室ノ建物一切同年末ニ完成セリ

(ハ) 龍仁洞第一坑及第二坑ニ五馬力電氣唧筒各一基ヲ新設セリ

(ニ) 修理工場ニ二十馬力電動機ヲ据付ケタリ

以上増設擴張セル外安靜洞坑ニ探礦準備トシテ五十馬力電氣捲揚機及十馬力電氣唧筒一臺及安靜洞、龍仁洞ニ於ケル石炭並材料運搬用トシテ鐵索一式購入セルヲ以テ遠カラス据付ニ著手ノ計畫中ナリ

本年度坑道掘進延長龍仁洞第一坑第二坑共百九十二間餘年末現在總延長千七百八十七間餘ナリ同年末現在鑛夫員數内地人五人朝鮮人二百八十九人計二百九十四人内地人最高賃金二圓十錢最低七十七錢平均一圓十五錢ニシテ朝鮮人最高賃金ハ一圓二十錢最低二十七錢平均七十二錢五厘ナリ

利原鐵山 鐵 位 置 咸鏡南道利原郡南面 鑛業權者 利原鐵山株式會社

本鐵山ノ露頭部ハ傾斜ニ或ハ走向ニ副ヒテ現出シ其ノ延互スル事東山ヨリ居山溪谷ニ至ル宛々數里ニ互リテ處々ニ露出

シ其鑛床ノ分布曠大ニシテ鑛量亦富饒ナリ而シテ幾多ノ小斷層アルモ作業上困難ヲ來スカ如キ事ナク鑛層走向ニ沿ヒ鑛押水平坑道ヲ開鑿シ運搬坑道ヲ兼ヌ作業方法ハ階段掘ヲ採用ス大正九年中事業擴張ニ伴フ諸般設備ノ完成セルモノハ

- (イ) 海岸浮標及給水タンクノ新設
- (ロ) 水道ノ改造
- (ハ) 遊藝場及屠牛場ノ新設
- (ニ) 鮮人納屋新設
- (ホ) 防水堤築造
- (ヘ) 小學校建設
- (ト) 貯鑛場建設

尙從來ノ作業ハ專ラ勞力本位ニ稼行シツツアリシモ今後理想的作業能率ノ増進ト勞力ノ節約ヲ期スヘク又運輸上ノ不備ヲ除去セムカ爲軌道及棧橋設備ノ計劃アリト謂フ

同年坑道掘進延長

同年末現在掘進總延長

東山坑	八八五、〇〇	二、八〇一、〇〇
本山坑	二、九二三、〇〇	八、二五一、〇〇
西山坑	五、三〇〇、〇〇	一四、六八五、〇〇

本年末現在鑛夫員數朝鮮人二十人最高賃金九十錢最低七十錢平均八十三錢ナリ

寶岩鐵山 鐵 位 置 咸鏡南道北青郡居山面利原郡南面 鑛業權者 麻生音波

本鐵山ハ大正九年上半年ハ主トシテ探鑛作業ヲ行ヒ下半年ヨリ始メテ探鑛ニ著手スルト同時ニ探鑛現場ヨリ選鑛場迄約七八百尺ノ間ニ自動鐵索二臺ヲ増設ス本年中坑道掘進延長六百四尺五寸年末現在總延長二千六百六十七尺ニ達セリ同年末現在鑛夫員數朝鮮人八十名支那人二十三名計百三名其ノ一日ノ賃金朝鮮人最高一圓二十錢最低二十五錢平均九十錢支那人最高九十五錢最低八十錢平均八十五錢ナリ

生氣嶺鑛業所 石炭及高嶺土 位 置 咸鏡北道鏡城郡梧村面朱乙温面 鑛業權者 西島三郎

附錄 朝鮮臺灣樺太ニ於ケル鑛業

本礦山ニ於ケル事業擴張ニ伴フ諸般設備ノ主ナルモノ左ノ如シ

- 一、倉庫新築三十二坪
 - 二、鐵工場移轉改築三十二坪
 - 三、事務所ノ擴張及索道中間停車場社宅新築十六坪
 - 四、物品配給所新設四十三坪
 - 五、鏡城停車場棧橋架設(石炭積込用)三十三間
 - 六、徑七呎長サ三十呎ランカッシャー汽罐設置
 - 七、二十吋蒸氣捲揚機据付一臺
- 大正九年中坑道掘進延長トシテハ三尺層九十間上十二尺層八百三十間、下十二尺層四十間、五尺層十六間蛙目層三百五十間外ニ岩割二十間ナルモ舊採掘坑道ノ延長詳細ナラサル爲本年末ニ於ケル總延長ハ不明ナルモ約五千間位ナリ同年末現在鑛夫員數二百二十名内地人十名朝鮮人百九十名支那人二十名ナリ其ノ一日ノ賃金内地人最高二圓五十錢最低一圓八十錢平均二圓十五錢朝鮮人支那人最高一圓八十錢最低一圓二十錢平均一圓五十錢ナリ

七 新重要鑛山

京畿道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
六六	始興鑛山	銀銅鐵	始興郡西面南面	飯田延太郎					

忠清北道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
六八	始興鑛山	銀銅鐵	始興郡西面南面	飯田延太郎					

忠清南道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
九三	九峰山鑛山	金	青陽郡斜陽面	外城市耶					

全羅南道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
一八六	光陽鑛山	金	光陽郡光陽面	長谷川龍平					

黃海道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
一七七	栗浦金山	金	延白郡海月面	谷口與四郎	四七五	鳳山炭礦	石炭	鳳山郡洞仙面	加藤爲二郎

平安北道

登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名	登錄番號	鑛山名	鑛種名	鑛區所在地	鑛業權者氏名
七三	郭山鑛山	金	定州郡玉泉面	アープレサン					

始興鑛山 銀銅鉛 位置 京畿道始興郡西面南面 鑛業權者 飯田延太郎

沿革、明治四十二年頃ノ發見ニ係リ岡宗治許可ヲ得テ探掘ヲ試シモ振ハス中途ニテ廢絶セリ其ノ後明治四十五年小林藤

右衛門許可ヲ得テ再ヒ探掘ヲ開始シ爾來有澤、小杉、小林等ヲ經テ大正七年九月現鑛業權者之ヲ讓受ケ今日ニ至ル
 地理 本山ハ京釜線始興驛ノ西南方一里餘所下里ニアリ其ノ間一小坂アレトモ道路開ケ牛馬車ノ通行ニ差支ナシ
 地質及鑛床 附近ニハ黑雲母片岩、白雲母片岩、眼球片麻岩及閃綠岩等アリ鑛床ハ角閃岩ノ片麻岩ト相接スル附近ニ胚
 胎シ黃銅鑛及方鉛鑛ノ鑛染狀鑛塊ナリ數箇所ニ露頭ヲ有シ其走向ハ略東西主ナルモノハ本山ノ鑛體ニシテ走向北二十五
 度乃至二十二度東傾斜西北四十度ナリ鑛體内ニ斷層現ハレ其ノ附近鑛石良好ナルモノノ如シ鑛石ハ角閃岩ヲ鑛石トシ黃
 銅鑛及方鉛鑛ノ外ニ磁硫鐵鑛及閃亞鉛鑛ニ隨伴シ極メテ緻密ナル構造ヲ呈ス貪鑛ハ角閃岩ニ上記ノ硫化鑛物ヲ點々ニ散
 布スルモノナリ

採鑛 鑛床ノ南方ヨリ鑛入約八十尺ニテ鑛體ニ著ス此ノ部分ノ幅員四十尺掘進ハ凡テ手掘ニシテ爆藥ニハ「ノーベルゼ
 リグナイト」ヲ使用ス

選鑛 鑛石ハ坑口附近ノ手選場ニテ大割手選ヲナシ精ヲナシ精鑛ヲ貯藏

同明鑛山 黑鉛 位 置 忠清北道沃川郡青山面 鑛業權者 佐野直喜

沿革 本鑛山ハ明治三十九年九月小宮萬次郎ニ於テ探掘許可ヲ得タルモノナルモ明治四十四年十二月現鑛業權者之ヲ讓
 受ケ今日ニ至ル

地理 京釜線黃洞驛ノ北方六里ニ位ス

地質鑛床 附近ハ前寒武利亞ニ屬スル砂岩粘板岩並花崗岩ヨリ成リ鑛床ハ之等水成岩中ニ扁桃狀ヲナシテ胚胎シ主ナル
 モノ三層アリ内二層ハ地層ニ從ヒテ斜ヲ形成シ走向東西ニシテ鑛層ノ幅員大ナル處ハ六十尺ニ達シ延長四百餘間ニ及
 フ鑛石ハ土狀黑鉛ニシテ鑛層中ニ母岩ヲ含有スル處アリ

採鑛 採鑛場ハ聖積谷採鑛場、月明採鑛場ノ二箇所ニシテ聖積谷採鑛場ハ第一坑―第二坑高差四〇尺第三坑―第三坑高
 差六〇尺第三坑―第四坑高差一一〇尺ニシテ目下採掘中ノモノ第三坑ノミニシテ鑛入ニテ鑛層ニ著シ之ヨリ鑛押ニヨレ
 リ第四坑ハ目下開坑中ナリ月明採鑛場ハ前鑛主ノ稼行セル處ニシテ富鑛部ハ殆ント採盡セリ目下露頭下約六十尺計リノ
 處ヨリ第一坑ヲ開坑シテ著鑛シ是ヨリ鑛押シニ進メリ坑道ノ加脊ハ六、七ヲ普通トシ殘柱法ニ似タル採掘ヲナス
 運搬 坑内運搬ハ「チグ」又ハ木製半噸入鑛車ヲ使用ス山元黃洞驛間ハ從來牛馬車ニ依リタルモ目下山元永同驛間七里
 フ牛馬車ニテ運搬ス

選鑛 選鑛ハ手選ニヨリテ鑛石中ノ母岩ヲ取り除キ六分目以下二分目以上ノ塊鑛ト二分目以下ノ粉鑛トニ篩別ス其割合
 ハ塊三分ノ二粉三分ノ一平均品位八十%前後ナリ

九峰山金鑛 位 置 忠清南道青陽郡斜陽面 鑛業權者 外城市耶

沿革 本山ハ明治四十四年十月金泰圭許可ヲ得大正五年八月現鑛業權者之ヲ讓受ケ今日ニ至ル

地理 本山ハ青陽邑ノ南方約二里九龍里ニ在リ

地質及鑛床 地質ハ主トシテ黑雲母片岩ヨリ成ル鑛床ハ此ノ中ニ胚胎スル含金石英鑛脈ナリ主要ナルハ草井里ノ西方山
 頂ニ在リテ走向北東三十度傾斜東方三十五度延長約五十間アリ其ノ東北端ニテ走向北西十五度傾斜東北延長二百尺ノ他
 ノ鑛脈ト相會シテ幅六尺ニ膨大シ會合點附近ニ富鑛部ヲ形成スルモノノ如シ鑛石ハ白石堅緻ノ石英ニ多少水酸化鐵ヲ含
 有シ又黃鐵鑛及方鉛鑛ニ伴フモノアリ本脈ノ東南方山脊ニ四條ノ相接近シテ併走スル鑛脈アリ走向北東四十二度乃至三
 十度脈幅一尺五寸内外延長大ナルモノ七十間アリ
 採鑛 露頭部ヨリ鑛追又ハ斜坑ニテ掘進セリ本脈ノ斜坑ハ深サ六十尺ニ達ス開掘及採鑛ハ總テ人力ニ依リ堅岩ニハ爆藥

ヲ坑内外ノ運搬ハ總テ「チグ」ヲ使用セリ

製鍊 手選ヲ施シタル精鑛ハ九龍里ノ谿流ニ設ケタル水車搗鑛機ニ依リ處理ス

光陽鑛山 金 位置 全羅南道光陽郡光陽面 鑛業權者 長谷川龍平

沿革 本山ハ大正四年頃ノ發見ニ係リ同年十一月朴在根許可ヲ得テ探掘ニ著手セシカ同年九月現鑛業權者之ヲ讓受ケ以テ今日ニ至ル

地理 光陽灣ニ臨ミ朝鮮郵船株式會社汽船ノ寄港地ナル下浦ニ一里餘光陽邑ニ至ル西一里ナリ又河東光陽間ハ道路ハ鑛區ノ西部ニ通シ海陸ノ交通至便ナリ

地質及鑛床 地質ハ主トシテ灰色花崗岩及片麻岩ヨリ成リ北境ニハ中世層露出シ處處ニ班岩岩脈貫入セリ鑛床ハ専ラ片麻岩中ニ胚胎スル含金石英脈ニシテ其ノ數十餘條アリ其ノ走向概ネ北二十度ヨリ四十五度東延長比較的大ナリ現時稼行スル鑛脈ハ風大山ノ西方山腹ニ存在スル一條ニシテ本鑛脈ハ露頭部管ヲ探掘セラレ堅抗深サ百二十尺ノ下底ニ於テ鑛追四十尺ヲナス脈幅六寸乃至一尺六寸ノ良好ナル部下ヲ存ス

栗浦金山 金 位置 黃海道延白郡海月面 鑛業權者 谷口典三郎

沿革 本山ハ大正四年五月林洪錫許可ヲ得テ探掘ニ著手セシカ同六年現鑛業權者之ヲ讓受ケ動力設備ヲ完成シ銳意排水ニ努メ坑内ヲ改修シ又製鍊設備ヲ擴張シ事業漸次發展ノ緒ニ著キ以テ今日ニ至ル

地質及鑛床 地質ハ黑雲母花崗岩、砂質片麻岩、黑雲母片麻岩等ヨリ成リ鑛床ハ此ノ中ニ胚胎スル含金石英鑛脈ニシテ現時稼行中ノ鑛脈幅員平均三尺内外ナリ鑛脈ハ其ノ兩盤ノ岩石ヲ異ニスル處アリテ下盤ニ剝離狀片麻岩上盤ニ白雲母花崗岩ヲ母岩トスルモノアリ鑛石ハ白石英緻ノ石英ニシテ多少ノ水酸化鐵ヲ伴ヒ甚タ硫化鐵物ニ乏シキモノナリ

探掘 往年探掘セル跡ヲ改修シ斜坑ヲ以テ掘進ス現時三坑アリ第一坑ニハ三聯式「プランシヤ」唧筒一分間十三立方呎一臺及渦卷唧筒一分間二十立方呎一臺ヲ設ケ鑿孔ハ人力ニ依リ「ゼリクナイト」ヲ用ヒテ發破ヲ行フ

製鍊 事務所ノ傍ニ搗鑛製鍊及青化製鍊設備ヲ有シ其ノ重要ナルモノ左ノ如シ

一、秤重量四百五十封度秤數八本 二、秤重量六百五十封度秤數十本 三、原液槽一個 四、滲出槽六個 五、沈澱箱

二個 六、廢液槽一個

運搬 坑内運搬ハ總テ人肩ニ依リ坑口附近ノ貯鑛場ニ搬出シ之ヨリ製鍊所迄約二町間ハ牛車又ハ荷車ニテ運搬ス

鳳山炭礦 石炭 位置 黃海道鳳山郡洞仙面文井面 鑛業權者 加藤 爲二郎

沿革 本炭礦ハ約十年前ノ發見ニ係リ登錄第七六一號ハ明治四十四年二月船橋右策許可ヲ受ケ約四百七十噸餘ノ探掘ヲ爲シ白煙炭ト稱シ一時販賣ヲ試ミタルコトアリ其後大正三年六月明治鑛業株式會社ノ經營ニ移リ同時ニ探掘作業ヲ開始シ約一箇年ニシテ中止セリト謂フ登錄第四五三七號ハ大正七年三月建部喜三郎外二名ニテ許可ヲ得同年五月現鑛業權者之ヲ讓受ケ次テ他ノ四鑛區ノ許可ヲ併セ得テ同年十月ヨリ試掘又ハ探掘ヲ開始シ同年十一月ヨリ探掘ニ著手シ以テ今日ニ至ル

地理 京義線沙里院驛ノ東南約一里十町馬洞驛ヲ距ル東北一里強沙里院及馬洞驛ヲ連結セル一等道路ヲ距ル僅カニ二町内外ノ地點ニ在リ道路平坦交通運搬共ニ至便ナリ

地質及炭層 本炭田ハ第三紀層ヨリ成リ古生層其ノ基磐ヲナシ含炭層ノ北東南東邊ヲ圍繞シ三紀層ハ脆弱ナル砂岩頁岩
粘土等ノ岩種ヨリ成リ炭層ハ上、中、下ノ三層アリ各層厚ハ上層八尺六寸中層八尺二寸下層十六尺乃至二十四尺走向北
六十七度東傾斜北西十三度ニシテ目下稼行セルハ下層ニ下磐附キ八尺ナリ

探鑛 殘柱式ヲ採用ス運搬坑道ハ母岩中ヲ六、七加脊ヲ以テ水平坑道ヲ開鑿シ延長四十五間ニシテ岩層ニ會ス之ヨリ炭
層ノ走向ニ從ヒ左右兩片盤ヲ掘進セルモ右方ハ隣鑛ニ近接セル爲十五間ニ中止シ主トシテ左片ヲ掘進シ延長百四十間
ニ達ス切端ハ昇、卸共ニ五、六加脊ニテ探掘シ九間方形ノ炭柱ヲ作り必要ニ應シ之カ拂ヲ行ヒ出炭シツツアリ

郭山金鑛 金 位置 平安北道定州郡玉泉面 鑛業權者 アイブレンザン

沿革 本山ハ明治四十四年趙泰允許可ヲ得テ探掘ニ著手セシニ始マリ一時隆盛ヲ極ム其ノ後大正五年一月ニ至リ現鑛業
權者之ヲ讓受ケ專ラ開鑿ニ努メ且製鍊場ヲ新設シ今日ニ至ル

地理 本山ハ京義線郭山驛ヨリ東北三里半ニ位シ其ノ間道路平坦ニシテ車馬ノ交通便ナリ

地質及鑛床 地質ハ花崗岩ヨリ成リ時ニ剝理狀ヲ呈スル所アリ其ノ他石墨片岩現ハル鑛床ハ花崗岩中ニ胚胎スル合金石
英脈ニシテ主ナルモノヲ鷲峰及新穴ノ二脈トス鷲峰脈ハ走向北七十度乃至四十度東傾斜南東七十五度延長四百二十間脈
幅平均五寸ナリ新穴脈ハ鷲峰脈ノ南方二百六十間ニ在リテ前者ト併走セリ延長百五十間脈幅一尺乃至三尺ナリト云フ鑛
石ハ白色石英ニ稍多量ノ硫化物ヲ有シ黃鐵鑛、閃亞鉛鑛、方鉛鑛等ヲ混合ス硫化鑛石ニハ品位良好ナルモノ多ク嘗テ露
頭部ノ酸化鑛ニハ肉眼的自然金ヲ散點シ合金千分臺ノモノアリシト謂フ

探鑛 露頭部ハ從來盛ニ探掘セラレタルモ現時鷲峰脈ノ一、二ヶ所ヲ探掘及探掘ス脈幅一寸乃至二寸ノ細脈ナレトモ含
金良好ナルモノノ如シ鑿孔ハ手掘ニヨリ「ゼリグナイト」ヲ以テ爆破セシム坑道ニハ軌距一呎八吋九封度軌條ヲ敷設シ坑

内外ノ鑛石ヲ運搬ス

製鍊 事務所ノ西北方山麓ニ搗鍊製鍊所アリ其ノ主要ナル設備ハ島鑛機五本(千五十封度)ウキルフレ一汰盤二臺トス

八 鑛 夫

大正九年中ニ於ケル工數、行業日數及同年六月末日現在鑛夫員數ヲ見ルニ工數八百二十九萬八千餘工行業日數三萬五千百
九十六日鑛夫員數一萬六千四百七十人ニシテ右ノ内鑛夫員數ヲ其ノ就業スル鑛山ノ種類ニ依リ區別スレハ金銀鑛山(砂金
ヲ含ム)千五百四十五人鐵鑛山四千五十六人其ノ他ノ金屬鑛山一千八百九十二人特許鑛山二千五百九十九人黑鉛山三百四
十人石炭山五千七百九十二人其ノ他ノ非金屬鑛山二百四十六人ナリ而シテ鑛種別及道別ニ依ル累年工數ヲ掲クレハ左表ノ
如シ

區 別	明治四十四年		大正元年		同 二 年	
	工 數	鑛夫員數	工 數	鑛夫員數	工 數	鑛夫員數
金銀鑛山	一、五五五、八〇〇	一、九、六五五	一、〇一〇、〇〇〇	一、八、〇〇〇	一、六、七、三三三	一、六、八、八八八
鐵鑛山	三、六、七、七七	一、一、三三三	三、三、三、三三	一、一、三三三	一、一、三三三	一、一、三三三
其ノ他ノ金屬山	三、七、七、七	一、一、一、一	三、三、三、三	一、一、一、一	三、三、三、三	三、三、三、三
特許鑛山	一、〇、七、七、七	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
黑鉛山	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
石炭山	六、六、六、六	二、二、二、二	六、六、六、六	二、二、二、二	六、六、六、六	二、二、二、二
其ノ他ノ非金屬山	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一	一、一、一、一
合 計	三、七、七、七	一、一、一、一	三、七、七、七	一、一、一、一	三、七、七、七	一、一、一、一

總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	
						行業日數	工數
1,101	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
...

九 嶺山變災

嶺山變災及鑛夫死傷者ノ届出ニ關シテハ朝鮮鑛業令中何等規定ナキヲ以テ其ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ資料無カリシモ大正八年以前ノモノニ付テハ同年十二月末日現在嶺區中ノ稼行嶺山ヨリ既往數年間ノ嶺山變災ニ關スル報告書ヲ徵シ同年分ニ關シテハ同年末現在ノ稼行嶺山ニ對シ同様報告書ヲ徵シ之カ概況ヲ知ルノ資トナセリ故ニ大正八年以前ノモノニ在リテハ調査不能ノ爲之ヲ計上セサルモノアルヲ以テ其ノ實際數ハ本表ニ比シ幾分多キモノト見ルヲ得ヘシ

大正九年中ニ於ケル變災事故ハ其ノ回数一千三百七回ニシテ之カ爲死亡シタルモノ四十九人重傷者百二十八人輕傷者一千四百二十一人合計一千五百九十八人ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ變災回数四百三十七回死亡者二十八人重傷者五十五人輕傷者二百三十人合計三百十三人ヲ減少セリ

左ニ變災事故回数死傷數累年比較及同大正九年原因別明細ヲ示ス

區別	回数	死		重傷		輕傷		合計	
		内地人	鮮人	内地人	鮮人	内地人	鮮人	内地人	鮮人
明治四十四年	三六	一	一	一	一	一	一	一	一
大正元年	八二	一	一	一	一	一	一	一	一
同二年	五五	一	一	一	一	一	一	一	一
同三年	五二	一	一	一	一	一	一	一	一
同四年	六三	一	一	一	一	一	一	一	一
同五年	六四	一	一	一	一	一	一	一	一
同六年	一〇一	一	一	一	一	一	一	一	一

主要鑛山ノ狀況 (鑛産檢定價格一萬圓以上)

(附表)

金屬鑛山

大正九年

鑛種	登錄番號	鑛山名	鑛區所在地	鑛業權者	鑛產		工數	現役人員
					種別	數量		
金	一、三六六	貽州金山	京畿道揚州郡	株明式治會鑛社業	金	二、二八八	一〇、六八四	四〇
鐵	二、四七七	大串山	同 金浦郡	株式菱會鑛社業	鐵	八、七三三	四四、八三三	一九、六八五
金銀銅鉛	九、六九六	始興鑛山	同 始興郡	飯田延太郎	金銀銅	二、七〇、四七七	一五、八三七	一九、九二六
砂金	二、四一七	同	同 安城郡	株式山會鑛社業	金	九、七、〇〇八	四九、八〇〇	二四、二〇六
金	一、七三三	金井鑛山	忠清南道天安郡	株式井佐次	金	一、七、〇〇一	五、三三四	一六、五〇〇
同	九〇三	九峰山	忠清北道永同郡	外城一郎	同	二、四〇〇	二、〇〇〇	一六、五〇〇
同	三、八三三	林川金山	忠清南道青陽郡	三谷兼二郎	青金	二、二、六〇〇	四四、二七五	一三、六八〇
同	五、六七	稷山金鑛	同 扶餘郡	株式山會鑛社業	金	三、七〇〇	一九、六五八	四、五八五
同	外四	同	同 天安郡	株式倉會鑛社業	金	一、〇、二八	三、四八	二、九二六
同	二、八六九	大倉結城山	同 洪城郡	株式谷川龍平	金	三、〇、三〇〇	二〇、二四	五〇〇
同	一、九九九	光陽鑛山	全羅南道光陽郡	株式室素肥	同	四、二〇〇	一八、〇〇〇	六、三九〇
同	三、二六四	順天鑛山	同 順天郡	株式室素肥	同	一、四、七、七九	二五、七七〇	一一、五〇〇

鑛種	登錄番號	鑛山名	鑛區所在地	鑛業權者	鑛產		工數	現役人員
					種別	數量		
金	一、八五二	統營鑛山	慶尙南道統營郡	株式原會鑛社業	金	二、七九、〇三三	三、五、二八	二、七
同	四、八七	大也金鑛	同 居昌郡	具訓會	金	四、五、〇〇	一〇、四九	五二
同	一、七七	栗浦金山	黃海道延白郡	谷口與四郎	同	二九、九五四	二〇、八三〇	四、七九
鐵	五、三三	般栗鐵山	同 般栗郡	農商務省	鐵	六三、五七四	五、四〇、三九	三三、八〇五
同	五、三三	同	同 載寧郡	同	同	七、五〇〇	五九、二七九	二六、三三
同	一、三六二	載寧鐵山	同 載寧郡	株式菱會鑛社業	同	六、四三六	四二、〇九〇	三七八
同	外一、三六二	同	同 同	同	同	四、八八五	三、七、七五〇	八九、八七三
同	外一、三六二	同	同 同	同	同	八二、七七	三、三、二九七	三三、五五四
同	一、〇七	安岳鐵山	同 安岳郡	株式鮮會鑛社業	鐵	一九、六九	二五〇、九七七	二二、五五四
同	五、七五六	同	同 黃州郡	同	同	一九、二八〇	三、四九九	六九
鉛金銀銅	外一、三三三	樂山鑛山	同 長淵郡	小林藤右衛門	金	二、九〇四	一四、五三	一三、七四一
同	外一、三三三	同	同 同	同	同	二、九〇四	一四、五三	五
金銀鉛	一、一八二	大倉秀堡	同 倉津郡	水野過一郎	金銀	一、六三、八三三	一八四、〇四四	七、六五
同	三、六七二	同	同 同	同	同	一九、七九九	一四、五八〇	一五七、一九四
亞鉛鑛	四、九六九	瑞興鑛山	同 瑞興郡	小山庄三	亞鉛	一、四四〇	一四、二八	一五、一六〇
同	三、六七二	同	同 同	同	同	二、九、七四九	一、四、三三	一、四、三三
一切鑛物	二	遂安鑛山	同 遂安郡	株式菱會鑛社業	鐵	一、七、七、〇三三	一、四、三三	三、七四、四九
同	一、三三八	同	同 般栗郡	同	同	一九、四四六	一、五、四九〇	八、九

附錄 朝鮮臺灣樺太ニ於ケル鑛業

四五

附錄 朝鮮、臺灣、樺太ニ於ケル鑛業

鑛種	登錄番號	鑛山名	鑛區所在地	鑛業權者	鑛產		工數	現月人員	
					種別	數量			
黑鉛	八四	日明鑛山	忠清北道沃川郡	佐野直喜	黑鉛	一、〇五七、七〇〇斤	一五、七二五	五、五四四	四九
硅砂	外五、〇一一	得水鑛山	全羅南道務安郡	旭硝子株式會社	硅砂	二四四九、六一一	二、八六八	一三、九四三	六九
高嶺土	四、九四四		慶尙北道沃川郡	小宮萬次郎	高嶺土	六、八七四、〇〇〇	六、七四〇	一三、九四三	一四
黑鉛	三〇五		忠清北道沃川郡	朝鮮硬質陶器株式會社	黑鉛	八〇〇、〇三五	一四、〇四五	三、七六四	一四
石炭	四、二八		慶尙南道固城郡	旭硝子株式會社	石炭	二、三五四、七〇六	二、〇一九	一四、四四三	四六
石炭	四、五七七	鳳山炭鑛	黃海道長淵郡	加藤爲二郎	石炭	四、〇〇〇	四、〇〇〇	一四、四四三	二五
石炭	三三五	鳳泉里黑鉛鑛山	平安南道价川郡	高木文次郎	石炭	八七三、六〇〇	一三、一〇四	五、五二二	二五
石炭	八四二	价川炭坑	平安南道价川郡	西崎鶴太郎	石炭	八八六	一〇、六三三	一四、四四三	三、四四〇
同	三三四	平壤鑛業所	大同郡	朝鮮總督府	同	一一五、六六七	九、八七二	八四、一五一	三、四四〇
同	一一二	大寶炭鑛	大同郡	朝鮮總督府	同	四〇、〇七六	四〇、〇九三	七四、八三四	二五
同	一、七六	長水院炭鑛	大同郡	朝鮮總督府	同	四、四四九	五、三八八	一八、〇〇〇	九四
同	七五七	安州炭鑛	安州郡	朝鮮總督府	同	二四、〇六五	二二、三三七	一〇一、四八二	三五三
同	一、三三五	江西炭鑛	江西郡	朝鮮總督府	同	三六、八三〇	四四、九六四	二四、三九九	二八
同	二、〇二八	江西炭鑛	江西郡	朝鮮總督府	同	三、一〇三	二八、四四〇	二四、三九九	二八

四七

非金屬山

鑛種	登錄番號	鑛山名	鑛區所在地	鑛業權者	鑛產		工數	現月人員	
					種別	數量			
同	二四〇	兼二浦鑛山	同	同	同	一、九四八	一七、六五一	六、三三三	八〇
同	外四三	价川鑛山	平安南道价川郡	日本製鐵會社	同	七、六三三	六二、〇六一	一一五、四九三	五八
同	外一〇八	普林山	江西郡	株式會社	同	四、一〇八	三三、六一九	九、九二二	七六
同	三、四七	三德鑛山	平安南道成川郡	久保順吉	金銀銅鑛	三〇八、〇四〇	一五八、四四五	二六、二四六	八八
金銀銅鉛	九六七	平壤鑛業所	平安北道龜成郡	古河會社	鉛	九七四、四三三	一八五、〇〇四	九、四九四	二六
同	外六六	新府山	同	谷口與四郎	同	九、八〇〇	四一、三三五	六七、八〇五	二二
同	七六二	郭山鑛山	定州郡	アープレサン	同	二七、三六二	三三、一六二	九、五六二	三三
同	六〇	吉祥洞鑛山	龜城郡	李龍淡	同	一三三、三八〇	五七、六九二	三六、三〇〇	一一〇
同	一、二七六	安突鑛山	熙川郡	株式會社	同	一五、八九〇	五四、七四五	二七、二九五	八〇
同	一、六五二	雲山鑛山	雲山郡	同	同	四五、一七〇	一一、五〇九	九、二二三	三九七
同	七六	昌城佛人鑛山	昌城郡	同	同	一七四、〇〇五	八七、〇二四	九、二二三	三九七
同	外三〇	田山鑛山	咸鏡南道田山郡	同	同	五〇〇、〇〇〇	六五、五五〇	九、二二三	三九七
同	一、四九三	寶岩鑛山	北青郡	同	同	一一、〇二〇	一五四、四八〇	二七、二九五	八〇
同	一、〇九〇	利原鑛山	利原郡	同	同	四九、一九八	一七一、一三九	二八、六三三	二〇
同	四、〇九〇	同	北青郡	同	同	七、一五二	三九、三三二	三九、二二二	二〇

附錄 朝鮮、臺灣、樺太ニ於ケル鑛業

四六

年次	石炭		亞炭		石油		硫黃		磷		計	
	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數		
同三十二年	六	四,三三,八七三			六	一,三三,九四四					六	五,六七,八一七
同三十一年	五	三,五三,一八〇			七	一,一九,二五五					五	三,七二,四三五
同三十年	二	五,五九,五三三			七	一,〇三,三三三					二	六,六二,八六六
同二十九年	二	三,五九,五三三			七	七,八,三三三					二	三,五九,五三三

年次	石炭		亞炭		石油		硫黃		磷		計	
	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數		
大正九年	九	三,七,九八五,九七五	三	三〇,一四七	八	三九,八八五,六三三	五	二,三三,九三三	三	一七,八〇六	九	四,一〇,一〇六,〇三三
同八年	六	一,七,三,三三三	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同七年	六	一,八,四〇八,九九	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同六年	四	七,九,三〇七,七九	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同五年	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同四年	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同三年	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同二年	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同元	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
明治四十四年	三	四,三,七九,四〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同四十二年	三	三,〇,〇〇〇,〇〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同四十一年	三	三,〇,〇〇〇,〇〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三
同四十年	三	三,〇,〇〇〇,〇〇〇	一		七	三,六,四三三	三	二,三〇,〇三三	四	三〇,七三三	六	三,六,四三三

最近三箇年間ニ於ケル鑛種別鑛區數及面積ヲ鑛業人種別ニ示セハ左表ノ如シ

年次	金		銀		銅		砂		鐵		砂		鐵	
	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數	鑛區	坪數
同三十九年	一	一〇,〇〇〇,〇〇〇			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十八年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十七年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十六年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十五年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十四年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十三年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十二年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十一年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同三十年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三
同二十九年	一	九,六三,五三三			五	一四,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三	一	一,一八,六三三

附錄 朝鮮臺灣樺太ニ於ケル鑛業

年次	大正七年						大正八年					
	計	内地人	本島人	内地人	本島人	共同	計	内地人	本島人	内地人	本島人	共同
水	3						2					
	1,251,995						1,251,995					
銀石	1						1					
	230,655						230,655					
炭	1						1					
	3,400,766						3,400,766					
亞	1						1					
	3,400,766						3,400,766					
炭	1						1					
	3,400,766						3,400,766					
石	3						3					
	1,334,877						1,334,877					
油	2						2					
	6,863,921						6,863,921					
硫	2						2					
	10,799,008						10,799,008					
黃	3						3					
	1,797,337						1,797,337					
磷	3						3					
	8,966,644						8,966,644					
計	3						2					
	1,097,557						998,334					

年次	大正七年						大正八年						大正九年						
	計	内地人	本島人	内地人	本島人	共同	計	内地人	本島人	内地人	本島人	共同	計	内地人	本島人	内地人	本島人	共同	
水	3						2						1						
	1,251,995						1,251,995						66,633						
銀石	1						1						1						
	230,655						230,655						66,633						
炭	1						1						1						
	3,400,766						3,400,766						66,633						
亞	1						1						1						
	3,400,766						3,400,766						66,633						
炭	1						1						1						
	3,400,766						3,400,766						66,633						
石	3						3						3						
	1,334,877						1,334,877						66,633						
油	2						2						2						
	6,863,921						6,863,921						66,633						
硫	2						2						2						
	10,799,008						10,799,008						66,633						
黃	3						3						3						
	1,797,337						1,797,337						66,633						
磷	3						3						3						
	8,966,644						8,966,644						66,633						
計	3						2						3						
	1,097,557						998,334						66,633						

鑛産

大正九年中ノ總鑛産價額ハ一千〇八十七萬五千六百二十一圓ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ二十九萬一千八百五圓即チ三分弱ヲ減少セリ近年著シキ増産ノ趨勢アリタル石炭ハ一般財界不況ノ影響ヲ受ケテ前年ニ比シ三十二萬三千八百七圓ノ増産ニ過キスシテ減産セル他ノ鑛産價額ヲ補フニ足ラス通シテ前記ノ減産ヲ示シタリ

左ニ鑛産額及同價額ヲ表示ス

一、鑛産額

年次	金	金銅鑛	砂金	銀	銅	銅鑛	水銀	銑鐵	石炭	石油	硫黃	磷
大正九年	二五九,九七〇	一,三三三,三五〇	二,四九九	一八八,八九	一,二五七,七三	五四九,七三	九,三三	一,三九,三三六	六,七三	一,三三九,九四七	一,三三九,九四七	一,三三九,九四七
同八年	一七〇,一八	二,四七〇,四七	一三,五五五	一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同七年	三〇〇,九七	一,六〇七,六六	九,九七	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同六年	四二,五二四	四,〇〇九,二七〇	二七,六九	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同五年	三六,一八三	七,一六二,九三	二六,〇五	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同四年	四八,六八二	二,六四四,六八	二七,二八〇	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同三年	三六,六〇七	九,六〇四,四九	三三,一九九	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同二年	三〇〇,四四	七,八五二,五二	一四,〇〇〇	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同元年	四七,三三三	三,三三三,七七	一五,六〇〇	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
明治四十四年	四二,一六〇	四,〇〇九,一〇	一七,三六	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同四十三年	四三,九六	四,〇〇九,一〇	一七,三六	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八
同四十二年	四二,一三三	四,〇〇九,一〇	一七,三六	三三,六九	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八	一,一七〇,一八

二、鑛産價額

年次	金	金銅鑛	砂金	銀	銅	銅鑛	水銀	銑鐵	石炭	石油	硫黃	磷
同四十一年	四九,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同四十年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十九年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十八年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十七年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十六年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十五年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十四年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十三年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十二年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十一年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同三十年	三三,三三	一,〇〇〇	二,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

三、鑛産價額

年次	金	金銅鑛	砂金	銀	銅	銅鑛	水銀	銑鐵	石炭	石油	硫黃	磷
大正九年	六九,八八	九,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同八年	八〇,九八	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同七年	一〇〇,〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同六年	二〇〇,〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同五年	一〇〇,〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
同四年	二〇〇,〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇

同	三	年	一、八六、〇三三	九、〇七五	八、三三三	五、七七一	一、〇五、七七一	八八九	一、三二、二元	六、八七	七、八二	四、五七、七二
同	二	年	一、三三、三三五	七、九〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	九、〇九八	一、三三、二元	一、三三、二元	三、八〇	三、八〇	四、一三、二四
同	元	年	二、三六、六〇〇	八、七五〇	五、九五〇	三、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
明治	四十四	年	二、三三、〇八〇	四、〇〇〇	五、七五〇	三、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	四十二	年	二、二九、九〇〇	四、〇〇〇	五、七五〇	三、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	四十	年	二、〇六、一三三	三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	四十	一年	二、〇六、一三三	三、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十九	年	一、八六、三三〇	二、九〇〇	三、八〇〇	二、八〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十八	年	一、九七、三三三	二、八〇〇	三、七〇〇	二、七〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十七	年	一、六四、五三三	二、六〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十六	年	一、〇六、九四四	二、〇〇〇	二、八〇〇	二、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十五	年	一、〇六、三三九	二、〇〇〇	二、八〇〇	二、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十四	年	七、四、一六六	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十三	年	三、九、〇六八	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十二	年	三、七、八四三	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六
同	三十	年	四、七、四八	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇三、〇〇〇	九、〇九八	九、〇九八	一、三、六〇	四、七、二八	四、〇八、一六

主要鑛山ノ事業概況

金瓜石鑛山

位置 臺北基隆瑞芳庄九分外一庄七字地内
鑛種 鐵 鑛名 田中鑛山 株式會社

一、鑛床 各鑛床ノ名稱、母岩、形狀、走向、傾斜ヲ表示スレハ左ノ如シ

鑛床名稱	形狀	走向	傾斜	母岩	鑛床名稱	形狀	走向	傾斜	母岩
金瓜石鑛床(本山)	鑛脈本	東南西北	東八十五度 北八十五度	安山岩	松	不	不	不	第三紀層
樹梅坑鑛坑	同	北二十度西	北八十度	第三紀層	竹	同	同	同	同
第一長仁鑛坑	塊狀	北五度西	東三十七度	第三紀層	武丹坑本鑛	鑛脈	北三十度西	西八十度	三安接觸帶
第二同	不	同	同	同	武丹坑山神鑛	同	同	同	安山岩
第三同	層狀脈	同	同	同	武丹坑榮盛鑛	同	同	同	同
第四同	不	同	同	同	金山	同	北二十度東	西七十度	同
第五同	同	同	同	同	草山	同	同	同	三安接觸帶

二、探鑛 前年來高田式ダイヤモンド試錐機二臺ヲ使用シ引續キ第一長仁坑四番坑以下ノ探鑛ヲナシ更ニ本山五坑以下ノ探鑛ニ從事セリ、試錐機及附屬品ノ主ナルモノ左ノ如シ

試錐機二組、交流モートル(七馬力半)二臺、石油機關(六馬力)一臺、サリバンロッド一千尺、ケイシングロッド百尺

三、探鑛 探鑛法ニ於テハ前年ト變化ナシ只現今稼行中ノ鑛床ハ金瓜石鑛床及樹梅坑鑛床ノ金鑛、第一第三長仁鑛床ノ金銅鑛ナリトス而シテ一箇月ノ平均出鑛量ハ金鑛八十萬貫金銅鑛五十萬貫ナリトス、此他上半期ニ於テハ内地移出ノ爲メ毎月金銅鑛二十五萬貫ヲ採鑛シタリ

四、選鑛 由來本鑛山金銅鑛ハ之レカ熔鑛ニ際シテ鹽基性煤熔劑ノ缺乏ヲ感スルコト大ニシテ本鑛山金銅鑛ヲ釜石製煉所ニ輸送シ以テ同山鐵鑛及硫酸燒滓ト交換シ之レカ補充ヲナシ來レルカ之等煤熔劑ノ缺乏ヲ補ヒ併セテ合金銅ノ品位ヲ

高メンタメ設計中ナリシミネラルセパレーシヨ式浮游選鑛場當年四月竣工ト共ニ上半期ニ限リ本鑛山金銅鑛ノ内地移出及内地鑛石ノ移入ヲ廢止シ而シテ尙一部ノ煤熔劑ノ不足ハ臺北州宜蘭郡東澳銅山ノ含銅磁硫鐵鑛ヲ以テ之ヲ補充スルニ至レリ而シテ金銅鑛ハ先ツ手選ニヨリテ上鑛(含銅百分九以上)中鑛(百分一以上)捨石(百分一以下)ニ別チ中鑛ハ更ニ浮游選鑛法ニ附シ其合金銅品位ヲ夫々元鑛ノ三倍乃至四倍ニ高メ上鑛ト共ニ熔鑛所ニ送致ス一箇月ノ處理鑛量約十二萬貫ニシテ約四分ノ一ノ精鑛量ヲ得、之レカ原働力トシテ百三十馬力ノ電動機ヲ据付ケ油トシテコールド、クレフソート、クロードカムフハーヲ混用シ其ノ量ハ元鑛量ノ千分ノ一・二ヲ用フ、而シテ生スル精鑛ハ煙灰及第一長仁粉鑛ノ少量ト共ニ足尾式スタンプニヨリ團鑛トシ熔鑛爐ニ投入ス

五、運搬 前年ニ變リナシ

六、製煉 本山ノ金鑛製煉ハ化學的ニ混汞製煉法ト青化製煉法トノ二種ニ區別セラレ更ニ青化製煉法ハ砂鑛製煉、泥鑛製煉法ノ二種ニ區別セラル而シテ金銅鑛ハ熔鑛製煉法ニヨリテ金銅ヲ採收ス其處理鑛石ハ、金銅鑛(銅品位百分九以上ノ塊)、油選精鑛、ウイルフレー式淘汰盤精鑛ノ三種ニシテ之ヲ溶解スルニハ酸化鐵、磁硫鐵鑛、石灰石ヲ煤熔劑トシ燃料トシテハ石炭及骸炭ヲ使用ス

七、產高 大正九年ノ產額ハ左ノ如クニシテ金銀塊ハ臺灣銀行ヲ經テ造幣局ニ納ム

金 九四、六三二匁 銀 一三三、九六九匁 銅 一、一五三、七八三斤

八、鑛夫 常備トシテ使役スルモノ大正九年末日現在左ノ如シ

内地人 男一七五人 同 女二人 本島人 男一三三人 計 三三六人

此外臨時夫トシテ本島人男女七百五十人アリ、而シテ鑛夫ハ内地人ニアリテハ春秋二期ニ於テ多少ノ異動アルニ過キスト

雖本島人ハ本島二期ノ米作及收穫期ニ於テ使役人員ノ三分一以上ノ異動アリ

瑞芳金山 位 置 臺北州基隆郡瑞芳庄、双溪庄内地 鑛業權者 臺灣鑛業株式會社

本金山ハ大正九年十月十四日株式會社雲泉商會ヨリ鑛業權及設備一切ヲ其儘繼承シ臺灣鑛業株式會社之ヲ經營スルトコロトナレリ

一、探鑛 露頭部ニ於ケル酸化富鑛帶部ハ已ニ清國時代ニ於テ亂掘シ藤田組其ノ後整理シテ秩序アル探鑛法ニ則リ銳意探鑛ヲ施シ陽坑内四番坑道以上ハ殆ント探盡サレタリ然レトモ四番坑道以下陽下八番坑地並迄ノ未探掘部並ニ砂金採取ハ受負稼行ニ委スルヲ有利ナリト認メ本島人顏雲年引受後ハ坑内ヲ區劃シテ受負制ヲ執リ大正九年ニ入りテ直營トシ表土及往時ノ廢石處理ヲ行フト共ニ下底掘進ノ目的ヲ以テ本批八番坑道地並以下一部ヲ掘下探掘セルカ出水多量ニシテ到底人力ヲ以テシテ排水困難ナルニ至リ遂ニ五月之中止シ專ラ探鑛擴張ノ爲メ橫坑道ノ開鑿探鑛ニ全力ヲ注キ相當ノ曙光ヲ認メタルヲ以テ十一月末ハ一時坑内作業ヲ中止シ其後ハ坑道保存ニ努メタリ而シテ鑛脈ヲ探掘スルニハ上向階段掘法ヲ用ヒ坑道保存ノ必要上六尺乃至十尺ノ龍頭ヲ殘留シ坑道内鑛石全部ヲ探掘ス鑛石ト捨石トハ切羽ニ於テ之ヲ選別シ捨石ハ掘跡ノ充填ニ當ツ肉眼ヲ以テ鑑別シ得ル富鑛ハ探掘ニ當リ金粒ノ脱落逸散ヲ防クタメ蓆又ハ布袋ヲ布キテ之ヲ集メ直チニ封印ヲ施シテ製煉場ニ送ル階段ノ高サハ六尺長サ二十五尺ヲ普通トス斯クノ如クシテ進掘シタル後冠リニ殘シタル龍頭ノ探掘ヲ終ヘ充填ノ固着ヲ俟テテ漸次探掘ス、當山附近ハ水源涵養ノ素地乏キヲ以テ夏季飲料水缺乏ヲ告クルコトアレトモ雨期ニ入りテハ霖雨月餘ニ互リ溪流ノ氾濫ヲ來シ坑水亦激増スルヲ以テ批押及墜入坑道ノ勾配ヲ百分ノ一ト定メ底側ニ溝又ハ木樋ヲ設ケテ自然ニ坑外ニ流失セシム坑内ノ通氣ハ自然通氣ニヨリ何等操業ニ差支ヘナク特ニ空氣ノ流通全カラサル箇所ニアリテハ風管若クハ扉ヲ用ヒ又ハ人力ニヨリテ旋風機ヲ回轉シ通風ヲ行フ事アリ

二、製煉 煖子寮製煉場ハ前掲ノ如ク坑内直營作業カ探鑛ヲ主トセルヲ以テ出鑛少ナク當年中ニ於ケル處理鑛ノ全部ハ大竿林九分溪方面ノ表土研石ヲ精洗シタルモノ竝ニ少量ノ本島人ノ製煉ヨリ生スル鑛尾及硫化汰鑛ニ過キス且ツ主鑛ノ品位低ク煖子寮ニ送リ製煉スルノ不利ナルヲ認メ六月末日限り本製煉場ハ一時休止スルコトナレリ而シテ現在ハ九分大竿林、大租坑、小租坑方面ノ上射式水車又ハ電力ヲ利用スル搗鑛機及簡單ナル藥研精洗法ニヨリ製煉ヲ行ヒツツアリ、此外本鑛區内九分溪、大竿林溪、大租坑溪、小租坑溪、新山等ノ地表又ハ溪内ニ於テハ砂金ヲ採取ス之等ハ受負制ニシテ鑑札ヲ與ヘテ採取セシメテ産金ヲ納付セシム、此ノ採金ノ方法ハ舊慣ヲ襲ヒ毛布板、切目板流シ等ヲ應用ス一日一工採金量二分乃至一匁以上ニ達ス現在採金シツツアルモノハ多ク廢鑛々尾竝ニ表土ノ一部ヲ洗水シテ稼行スルニ過キス溪水充分ナル雨期ニ於テハ今猶隨處ニ採金セリ

三、將來ノ計畫 陽坑内ニ於ケル主要鑛脈ハ下向スルニ從ヒ品位下降シ富鑛帶マタ上部ノ傾向ヨリ推察スルトキハ下底ニ緊縮スルノ觀アリシモ八番坑地竝上下ノ探採鑛進歩ニ伴ヒ數ヶ所ニ優良ナル富鑛帶ヲ發見シタルモノ不變鑛帶域ニ達スルコト猶遠キヲ立證セラレタルヲ以テ八番坑道以上ノ可償鑛脈ヲ探掘スルト共ニ下底ニ探掘個所ノ擴張ヲ圖ランカ爲メ水力發電所及坑内排水捲揚設備工事ニ着手セントス其ノ概要左ノ如シ

- 使用水 陽坑内ヨリノ排水ヲ利用ス流量一秒間渴水時一・五立方尺
- 引水法 坑内水ヲ沈澱池水槽ニ沈澱セシメ内徑六吋ノ引拔網管ヲ大竿林溪ニ沿フテ布設シ原動水車ニ給水ス
- 有效落差 五百四十五尺

原動機 油壓自動調整機付單輪單射高壓衝擊水車 八五馬力 九〇〇回轉 壓力一平方吋ニ付三〇〇ポンド 常

用一臺

- 發電機 三相交通發動機 直流勵磁機直結 一臺
- 電線路 坑外線 延長二五〇〇尺 坑内線 五、〇〇〇尺 低壓用 一、四〇〇尺
- 變壓器 高壓 三、三〇〇ボルト 二五KVA 一基 低壓 二〇〇ボルト 七五KVA 一基 一〇〇ボルト二KVA 二基
- 排水設備 往復働シンキグポンプ 二臺 三相誘導電動機 一二馬力 一臺
- 捲揚設備 單胴電氣捲揚機 一臺 三相誘導電動機 一臺

右工事ハ大正十年五月末迄ニハ完成セシムヘク、竣工ノ上ハ八番坑道地竝以下ノ掘鑿ニ移リ下底二百尺間ノ探鑛ヲ急キ鑛勢ノ確認ヲ得ハ新ニ陽坑準以下ノ某地點ヨリ各鑛ノ下底ヲ貫ク大切坑道ヲ開坑シ一旦休止セル製煉場モ遠カラス復活セシムヘシ、其他鑛區内表土ニ就キテ調査研究ヲナシ「ハイドロリックマイニング」ヲ實施シ遺利ナキヲ期セント欲ス

四、產高 金及銀ノ產額左ノ如クニシテ金ハ臺灣銀行ヲ經テ造幣局ヘ納ム

金 五三、一二一匁 二六五、六〇六圓 銀 一八、一八一匁 三、六三六圓

五、鑛夫 當年末現在人員ハ、内地人 男一人 本島人 男二七人

四脚亭炭鑛 鑛業權者 基隆炭鑛株式會社

炭層 現稼行炭層ノ基隆ノ東南約一里基隆川ノ兩岸ニ跨ルモノ及之ト隣接シ瑞芳ノ北煖子寮灣ニ至ル間ノ五鑛區總面積三百八十五萬餘坪ニ包藏セラレタル所謂四脚亭炭系ヲ代表セルモノニシテ可償炭層四枚アリ、領臺前ニハ露頭部ヲ姑息的ニ探掘シタルカ如キモ現今ハ專ラ中層ヲ探掘ス、中層ハ砂岩及頁岩ノ間ニ嵌夾セラレ厚サ三尺五寸乃至三尺八寸平均

三尺七寸ヲ下ラス此炭層ハ全ク夾雜物ナク殆ント整一ノモノニシテ區域ノ中央部ヲ縱貫セル一大向斜軸ヲ介シテ南北兩翼相向斜シ北東ヨリ南西ニ走り鑛區ノ中心部ハ盤鞍層ヲ成セリ、北翼ハ平均十二三度ニ緩斜ス南翼ハ所々ノ露頭部ニテ約五十度ノ急斜ヲ示セトモ小部分ニシテ深部ニ降ルニ從ヒ直チ二十二三度ニ緩斜ス又向斜軸モ鑛區ノ中央部ノ盤鞍層部ヲ中心トシテ東西ニ各四五度ノ緩斜ヲ成セリ、層狀及炭質極メテ齊整ニシテ間々斷層ニ會スルモ横壓ニヨリテ生スル小褶ナリ域内地質ハ砂岩極メテ能ク發達スルヲ以テ天井之カ爲メニ堅固ニシテ殆ント支柱ノ必要ヲ認メス從テ殆ント全炭層ヲ探盡スルヲ得ヘシ

探掘其他 探炭ハ今方長壁法ヲ用ヒ排水ニハ「スベシヤル」式「エプアンス」式及「ウヲーシントン」式唧筒ヲ使用ス通氣ハ排氣坑ニ排水ノ爲メ敷設セル送汽管ノ放熱ニヨル氣溫ノ變差ニ依リ自然通氣ヲナシ燈火ハ從來裸火ヲ使用シタルトモ漸次之ヲ改メ少量ニテモ爆發瓦斯ヲ認ムル坑内ニ於テハ全然「ウルフ」式又ハ「テビー」式ノ安全燈ヲ使用ス

運搬 各坑多少ノ差アルモ約六百斤入炭車ヲ汽力捲揚機ニテ坑外ニ曳出シ坑外ニテハ第一坑乃至第四坑ハ專用複線輕便軌道ニヨリ手押臺車ニテ入塔停車場内貯炭場又ハ第一坑基隆間ノ架空索道ニヨリ基隆貯炭場ニ送炭シ第五、六坑ハ基隆輕鐵株式會社線手押臺車ニテ基隆貯炭場ニ送ル

產額及販賣概況 當年中ノ出炭高ハ二十三萬四千三百七十四噸ニシテ當年下半年以來一般財界ノ恐慌來ト共ニ各種事業ノ縮少休止等ノ爲メ石炭需要ノ減退ヲ來シ一方撫順炭開平炭ノ出炭増加ノ爲メ東洋石炭市場ハ供給過剩ヲ呈シ從テ炭價逐日下落歩調ヲ辿リ加之香港爲替暴落ノ爲メ基隆二等炭以下ハ經營不引合トナリタルカ當坑產炭ハ一等炭ニシテ既ニ開拓セル内地、香港、新嘉坡、マニラ等ノ市場ニ向ツテ賣捌キタル爲メ販賣ハ前年ニ比シ増加ヲ見タリ即チ左ノ如シ

販賣高 一五七、一一六噸 一、〇八三、〇八八圓

此外鐵道部鑛區代理稼行探炭高ハ七萬七千六百四十噸ニシテ同部ニ納入セリ

鑛夫 當年末現在人員一千六百十二人ナリ

大租坑炭礦 位 置 臺北州基隆郡瑞芳庄九号橋外二字地内
鑛業權者 基隆炭礦株式會社

炭層 稼行炭層ハ基隆ヲ距ル東南三里十六町基隆川上流ノ右岸ニアリ走向百四十度乃至百八十度ナリ、走向ハ北スルニ從ヒ西ニ偏スルヲ認ム傾斜ハ露頭部ニ於テ二十度乃至三十度ニシテ一定セス之カ可償炭層四枚アリ上層、中層、下層、最下層ト稱ス上下兩層ハ厚一尺乃至二尺五寸ナルモ現今ハ中層ヲ探掘ス此厚サ平均三尺五寸炭質最モ良好ニシテ上下層共頁岩ヨリ成リ砂岩ハ炭層ノ上磐三十餘尺下磐二十餘尺ノ外ニアリ、天井ハ極メテ堅固殆ント支柱ノ要ヲ認メス本卸管卸及片磐等ノ主要部ノミ施行ス現坑口ハ露頭部上磐ヨリ平均二十度ノ傾斜ヲ保チテ開鑿シ三十八間ニテ著炭シ之ヨリ炭層(平均傾斜十二度)ヲ追掘スルニ從ヒ傾斜漸次緩トナリ坑口ヨリ八十三間ニ至レハ殆ント平坦ナリ、斷層或ハ褶曲等ヲ認メス實ニ良礦床タルヲ失ハス當年七月隣接久年第二坑ヲ合併セリ

探掘其他 探炭ハ主トシテ房柱式ニヨレルモ當今長壁法ニ改メタリ、坑内出水少ク比較的深部ナル左一片上位ニ八吋「スベシヤル」式ポンプ一臺ヲ使用シ上水ハ排水坑ニヨリ自然ニ排出ス通氣ハ坑内唧筒ヘノ送汽管放熱ニヨル氣溫ノ變差ニヨリ排氣坑口ニハ高サ三十尺ノ排氣筒ノ設置アリ、燈火ハ從來一般ニ裸火ヲ使用シタルモ近來少量ノ爆發瓦斯ヲ認メルニヨリ漸次安全燈ニ改メツツアリ、運抗ハ坑内一般ニ平坦ナレバ坑口ヨリ以下八十五間ノ箇所迄各坑道ヨリ約六百斤入木製炭車ニテ手押シ聯結ノ上汽力捲揚機ニテ坑外ニ曳出シ其儘自動裝置ニヨリテ貯炭場ニ送ル、大租坑水平坑ハ本卸テ下底百三十尺ノ坑外地ヨリ總延長五百二十間ニシテ向斜炭層ニ達シ本卸ト連絡ノ目的ニテ大正八年二月ヨリ開鑿中ノ處本年末貫通シタルヲ以テ十年二月中ニハ坑道ヲ完成セシメントス目下ガンリン機關車使用ノ準備中ナリ、從來附近猴

洞驛トノ聯結不備ナリシ爲メ輕鐵線路ニテ瑞芳驛へ搬出シタリシカ十一月基隆川ニ假架設ノ延長三百四十二尺ノ鐵線橋竣成シタルヲ以テ爾來猴洞驛ニ搬出スルニ至レリ而シテ當鐵區内久年第二坑及當坑ヨリ猴洞驛迄ノ運搬線路及猴洞驛ニ選炭場ノ新設ニ着手シタリ其計畫左ノ如シ

運搬線路ハ基隆川鐵橋延長二百七十三呎ニシテ官線鐵道面ヨリ高キコト三十五呎其東ヨリ南北ニ分岐ス該地點ヨリ久年二坑ニ至ル延長三百五十三間、本坑ニ至ル延長三百二十六間(内隧道四百三十五尺)幅二間十八封度軌條ノ複線ニシテ軌間二十吋トス、久年二坑東三坑口ヨリ十二封度複線軌條二百五十九間(内四十間インクライン傾斜十八度)ニシテ久年二坑線ト合ス以上ノ土工ハ大正十年四月、架橋ハ六月竣工ノ豫定ナリ、而シテ此線路ヲ通過シ猴洞驛選炭場ニ至レル石炭車ハ選炭機室ニ入レ機上ニテ顛覆セシム、選炭機ハ五百噸級二臺ニシテ一日一千噸ノ選炭ヲ爲ス尙ホ將來水選機ヲ設置スル計畫ニテ敷地ノ設備ヲモナセシカ當分ハ選炭機ニヨリテ塊炭(網目一時四分ノ一以上ニシテ大塊及中塊混入)粉炭(網目一時四分ノ一以下ノ見込)ノ二種ニ區別シ水選機設置ノ曉ニ於テハ大、中、小塊及粉ノ四種ニ類別スヘシ、選炭機上家ハ柱ノ基礎ヲ岩盤ニ置キレル地盤面ヨリ十四呎ノ高サ迄鐵筋コンクリートトシ之ヨリ上部ヲ木造トナス此建坪二百三坪ニシテ大正十年十月頃竣工ノ豫定ナリ

産額及販賣概況 當年中ノ出炭高ハ十二萬八千七百六十三噸價額八十六萬三千八百八十三圓ニシテ四脚亭其他ノ一等炭ト共ニ主トシテ南支南洋へ輸出シタリ

鑛夫 當年末現在六百五十四人ナリ、近年各種事業勃興當時ヨリ採炭夫ノ不足ヲ告ケ賃金ハ暴騰シタルカ當年ハ炭價下落ノタメ當社ハ經濟上不得已各坑共賃金ノ三割減ヲ勵行シ鑛夫ノ補充ニハ甚シク困難ヲ來セシカ漸次舊態ニ復シ勞働能率ハ増加シ事實ニ於ケル賃金減額ハ一割五分内外ニ止マリタリ

石底炭礦 位置 臺北州七星郡平溪庄石底外地内 鑛業權者 臺灣鑛業株式會社

炭層 概ネ頁岩若クハ砂岩ト頁炭層トノ間ニ介在シ主ナルモノ四層アリ其中最發達セル本層ハ二尺六寸乃至五尺五寸ノ厚サヲ有シ現今開掘中ニ屬ス、其他ハ五寸乃至二尺トス而シテ之等ハ横壓力ノタメニ鑛區ノ中央ヲ流ルル基隆川及景尾溪ノ支流大溪墘溪ニ沿フ一線ヲ褶曲軸トシテ相向斜シ鑛區ノ兩側山頂背斜軸附近ニ露出ス其走向北六十度乃至七十度東ニシテ前記向斜軸ニ向フテ十度乃至六十度傾斜ス

探掘其他 第一坑ハ東西各本坑道ノ外東上添、東西各切上リ總延長四千八百八十八尺此他風道二百四尺ヲ開坑ス高及幅各六尺ヲ普通トス而シテ當一坑ノ南二百八十間ノ地點ヨリ西北へ向ケ大切坑ヲ開鑿シタルモ五百二十八尺ニシテ十月末之ヲ中止セリ、第二坑ハ東西各本坑道總延長二千八百四十四尺東西各上添二千六百八十八尺各切上リ二百四十尺此他風道百四十四尺ヲ開坑セリ坑道加脊ハ高幅各六尺ヲ普通トス當坑口ヨリ南二百四十六間ノ地點ニ第二大切坑ヲ開鑿シ北へ向ヒ四百八十尺ニ至リ十月中之ヲ中止セリ、第三坑ハ本坑道延長二千六百六十尺(高幅各六尺)上添二千四百尺各切上リ七百九十尺ヲ開坑シ、第四坑ハ本坑道延長一千八十尺(高幅各六尺)上添八百七十六尺各切上リ三百三十六尺ヲ開鑿セリ、之等開坑ノ結果得タル石炭ハ未タ運搬設備完成セサル爲メ各坑口附近ニ貯ヘ在リテ未タ販賣セス既ニ多少ノ變質アルヘシト雖現存數量八千九百五十噸ナリ

運搬方法 各坑ヨリ左記ノ經路ヲ辿リテ當社專用鐵道終點平溪庄石底菁桐坑積込場及平溪子積込場ニ於テ當社鐵道及官線宜蘭線三瓜子ヲ經テ基隆牛稠港貯炭場又ハ官線各驛へ貨車積ノ儘搬出スルノ計畫ニシテ本年二月起工セシカ十年五月竣工ノ豫定ナリ

- 第一坑々口ヨリ菁桐坑積込場迄 一哩七七鎮二六 第二坑々口ヨリ菁桐坑積込場迄 一哩五鎮八三 第三、四

坑々口ヨリ平溪子積込場迄 一哩七十鎖九四

鑛夫 現在ハ採鑛準備工事中ナルヲ以テ従業人員ハ七十人ニ過キス

深澳炭礦 位 置 臺北州基隆郡基隆街深澳坑、八斗子地内
鑛業權者 黃

探鑛 現在採炭セル田寮港炭系ノ上位ニ當リ海岸山脈中ニ層厚一尺内外ノ薄層アリ四脚亭炭系ニ屬スルモノノ薄變セルモノト認メ海岸ノ低所ヨリ水平坑道ヲ穿テ之カ探鑛ヲナシツツアリ

探鑛 運搬其他 現今稼行炭層ハ三層ノ内、層厚三尺五寸ノ中層ノミニシテ殘柱式ニヨリ採炭ス、當年末迄坑道ノ掘進ハ第一坑ハ三百六十間ニ達シ第二坑ハ二百六十間ニ及ヘリ尙ホ前年來引續キ操業中ナリシ第二坑ノ排氣坑道ハ當年中全部貫通シ其坑口ハ之ヲ清國時代ニ開鑿セシ深度百餘尺ノ堅坑ヲ利用シテ之ヲ連絡貫通セシメタリ其他各坑共掘進ニ伴ヒ漸次動力ニ不足ヲ告クルヲ以テ當年中第一坑「ランカッシャー」式汽罐徑六呎強長三十呎ノモノ一基ヲ増設シ尙第二坑ニモ「コルニツシュ」式汽罐經約五呎長二十三呎ノモノ一基ノ新設ニ着手シタリ尙將來ノ計畫トシテ第二坑ノ掘進先ハ最早鑛區ノ境界ニ近ツケルヲ以テ隣區鑛業人ト妥協シ賃借稼行ヲ協議セシモ未タ決定ヲ見ルニ至ラスシテ經過シタリ、出炭ハ主トシテ切込ノ儘ニテ販賣スルヲ以テ殆ント選炭ノ要ナク偶々中炭ヲ要スル場合ニ約六分目ノ萬斛若干ヲ貯炭場ニ設備シ粉炭ヲ選別スルニ過キス運搬ハ依然三哩一分ノ複線式手押臺車ニヨリ八尺門貯炭場ニ運ヒ夫レヨリ更ニ解船及小蒸汽船ヲ利用シ基隆港内ノ碇泊船ニ積込ムモノトス此ノ輕便軌道ニハ今後勞力節減ノ爲メ之ヲ改メテ輕鐵用小汽關車ヲ使用スルノ計畫ヲ樹テ當年中既ニ要塞司令部ノ許可ヲ受ケ之ニ必要ナル線路ノ土工ハ全部竣成シ目下鐵道部ニ對スル許可申請手續中ナリ、其他前年來工事中ナリシ第二坑口ヨリ傾斜約十分ノ一延長百五十間ノ自動インクラインヲ完成シ既設軌道トノ連絡運搬ヲ爲スコトトセリ

產高及販賣 大正九年中ノ產出炭及販賣高ハ左ノ如クニシテ三井物產株式會社ト特約一手販賣トス

產高 三三、三二六噸 販賣高 三二、九五四噸

鑛夫 炭界ノ不況ニ伴ヒ漸次入坑鑛夫數ヲ減少シ十二月末日現在鑛夫二百名運搬夫三十名ニ過キス、目下自然採炭制限中ニシテ所要人員漸減ノ狀態ニアリ

金包里炭礦 位 置 臺北州基隆郡萬里庄頂萬里加投外一字地内
鑛業權者 臺 隆 炭 礦 株式會社

本鑛區ハ基隆ヲ距ル西北五里ノ地點ニ在リ四百五十六萬三千餘坪ノ面積ヲ有ス、元海軍豫備炭田ナリシヲ拂下ヲ受ケタルモノニシテ炭質良好本島一等炭ナリトス採炭其他ノ設備左ノ如シ

汽罐 コールニツシュ式一〇〇馬力 一臺 ランカッシャー式五〇馬力 一臺 汽機 二〇馬力 一臺
發電機 直流一〇ボルト一三六アンペヤ 一臺 軌道 坑内一二封度一、〇六三尺 一六封度二、六五六尺
坑外一二封度三五、五八九尺 鐵索 安全索道式一時間能力二五噸 六哩一分

採掘炭ハ捲揚機ニヨリ坑外ニ曳出シ基隆牛稠港貯炭場へ安全クリップ式索道六哩ヲ以テ搬出シ南支南洋ヲ主トシ本島南部へ供給ス、大正九年中ノ出炭高ハ六萬六千九十八噸價額四十三萬三千圓ナリ當年末現在鑛夫ハ内地人三人本島人三百二十五人ヲ有シ本島人ハ宿舍四十八棟ニ之ヲ收容シ其他傭人宿舍、獨身宿舍、社宅等アリ尙ホ俱樂部及醫務局殊ニ本島人鑛夫ノ子女ノ爲メ公學校ノ設置アリ

田寮港炭礦 位 置 臺北州基隆郡基隆街田寮港外二字地内
鑛業權者 基 隆 炭 礦 株式會社

鑛區内五箇ノ採掘坑口ヲ有ス何レモ露頭ヨリ直ニ或ハ一定ノ距離ニテ著炭セシメ常ニ炭層ニ沿テ斜坑道二箇ヲ竝鑿シ一ヲ運搬兼入氣坑トナシ他ヲ排氣坑トナス、就中第三坑ハ掘進百六十五間ニシテ著炭ノ豫定ニシテ本年中ノ掘進ハ七十

五間尙残り五十五間アリ十年三月中旬著炭ノ見込ナリ、探炭ハ運搬坑道ヨリ三十間乃至四十間毎ニ炭層ニ沿フテ左右水平坑道ヲ作り從來ノ殘柱法ヲ漸次長壁法ニ改メ探炭能力ヲ増加セリ運搬ハ切羽連炭ニハ約二百斤入竹籠ヲ使用シ片盤坑道ニハ五百斤入炭車ヲ使用シ斜坑運搬ハ捲揚機ニヨリテ一時ニ十車以内ヲ連結シテ捲上ケ坑外ニテ直ニ自働インクラインヲ經由シテ貯炭場ニ至ル之ヨリ積載量一千斤内外ノ手押炭車又ハ同量ノ竹籠一車ニテ中央貯炭場ニ搬出ス、使用軌條ハ坑内外共十二封度ヲ通常トシ間々十六封度ヲ用フ、海岸貯炭場ヘノ距離ハ近キハ數百間遠キモ一哩ヲ出テス産額ハ大正九年中六萬六千九百噸價額四十八萬八千三百六十九圓ニシテ三井物産株式會社ノ手ヲ經テ主トシテ南支、南洋ヘ輸出ス當年ノ販賣高ハ五萬六千四百四十九噸ナリ

鑛夫ハ當年末日現在八百四十五人ナリ

出礦坑石油坑場 位 置 新竹州苗栗郡公館庄出礦坑地内
鑛業權者 實 田 野 石 油 株 式 會 社
總 部 郡 田 野 石 油 株 式 會 社

本坑場ハ明治三十七年以來出油ヲ繼續シ漸次増産シテ大正二年ハ一萬五千餘石トナリ同五年ノ一萬七千餘石ヲ最高トシ其後ハ遞減シテ大正九年ノ産油ハ六千七百七十二石ニ過キス試掘中ノモノニ後壩溪右岸ノ第二十四號井アリ之カ油層ニ達セハ相當増産ヲ見シ、油井數及探油設備ハ左ノ如クニシテ採取セル原油ハ二石五斗入ノ「タンク」ニ容レ手押臺車ニテ苗栗驛前製油所ニ輸送シ精製ス

- 油井 (出油井七、採油中止井二、掘鑿中二、廢井一五) 槽 亞米利加式 木製九基 汽罐 (外焚多管式六
- 五馬力一臺、五〇馬力一臺、四五馬力二臺) 石油發動機 五乃至八馬力六臺 發電機 三キロワット一臺
- 唧筒 ウラーシントン式 〇. 〇. 〇. 一臺 送油鐵管 徑二吋四、五、四、四尺 油槽 鐵製二〇石乃至一、六〇
- 〇石 一二個 坑井鐵管 徑二吋乃至一五吋五 三五、一六五尺 汽機 八乃至一五馬力一四基

苗栗製油所ニ於ケル設備左ノ如シ

- 汽罐 多焚多管式 三〇馬力一臺 蒸餾釜 五〇石容二臺 二〇石、一〇石各一臺 アチターター 〇. 〇. 〇. 10
- 二臺 汽機 立式 三・五馬力一臺 油槽 鐵製 一二石乃至一、〇〇〇石二〇個 バラフィン壓搾機 一式
- 製罐機械 手動舊式一式 唧筒 ウラーシントン式 〇. 〇. 〇. 五臺
- 産額 大正九年中原油採取高ハ六千七百七十二石價額二十萬九千九百三十八圓ニシテ其内製油所ニテ精製シタルモノ左ノ如シ

- 揮發油 八八石 三、五五〇圓 燈油 四、六八八石 一六四、〇八三圓 重油 四一五石 一三、六九五圓
- バラフィン 三四、〇五二斤 六、二九二圓 重油殘滓 四三三石 八六四圓
- 販賣 全島樞要ノ地ニ設ケタル特約販賣店ニヨリ主トシテ燈火用、漁撈發動機船用ニ供給ス

三、樺 太

出 願

(樺太廳調査)

大正九年中ニ於ケル出願ハ鑛業六百四十一件ニシテ前年ニ比シ百五十七件ヲ減ス而シテ之ヲ鑛種ニ依リ大別スルトキハ金
屬三十三件非金屬六百八件ニシテ砂鑛ノ出願ハ一件モ之ナシトス左ニ出願處理ニ付テ前年トノ對照ヲ示ス

鑛業砂鑛業出願處理對照表

年 次	鑛業處理			砂鑛處理			合 計
	出願	許可	其ノ他	出願	許可	其ノ他	
大正八年	八〇八	九二	二二七	五	四	八	八三三
大正九年	六四二	一四	三三	一	二	六	六八三
							九五
							一二五

大正九年ニ於ケル鑛區ハ鑛業ニ在リテハ試掘二百十八件鑛區探掘二十六鑛區ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ試掘八十二鑛區探
掘六鑛區ヲ増加シ又砂鑛ニ有リテハ二鑛區ヲ減セリ

試掘鑛區累年對照表

年 次	區別	石炭	鐵	硫化鐵	金銀銅	金銀銅	銅	亞炭	金銀銅 稀水銀	硫黃	石油	計
大正九年	九九	一〇〇,〇〇〇	一,九四〇,三三三	三三	一,九四〇,三三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	一,九四〇,三三三

探掘鑛區累年對照表

年 次	區別	石炭	金銀	磷	合 計
大正九年	三,九九〇,〇〇〇				三,九九〇,〇〇〇

砂鑛區累年對照表

年 次	砂		金		年 次	砂		金	
	鑛區	面積及延長	鑛區	面積及延長		鑛區	面積及延長	鑛區	面積及延長
大正八年	八一	一六,〇〇〇,〇〇〇			大正九年	八二	一〇,五〇〇,〇〇〇		

鑛產累年對照表

年 次	川上炭鑛	泊居炭鑛	東白浦炭鑛	登帆炭鑛	大榮炭鑛	計
大正八年	六〇,〇四一,〇〇〇	三〇,〇九九,〇〇〇	二一,四八三,〇〇〇	二五,〇五〇,〇〇〇	八,七五四,〇〇〇	一三五,四七七,〇〇〇
大正九年	五,一一四,〇〇〇	三二,二四四,〇〇〇	六,八四〇,〇〇〇	三九,九四四,〇〇〇	三四,一三〇,〇〇〇	一五四,二九三,〇〇〇

稼行鑛區現在表

名 稱	所 在 地	鑛 種	面 積	著 手 年 月 日	鑛 業 權 者	備 考
川上炭鑛	豐原郡豐北村大字川上	石炭	三,〇〇〇,〇〇〇	大正二年十一月二十八日	三井鑛山株式會社	

附錄 朝鮮、臺灣、樺太ニ於ケル鑛業

泊居炭礦	泊居郡泊居町大字元澤	七七、七〇	大正三年十月二十二日	探掘請負人樺太工業株式會社	國有炭礦
東白浦炭礦	榮濱郡白縫村大字東白浦	四九、五三	大正三年一月五日	樺太炭礦株式會社	
登帆炭礦	元泊郡帆寄村大字登帆	六三、四三	大正五年八月一日	登帆炭礦株式會社	
大榮炭礦	泊居郡名寄村大字名寄	九六、七〇	大正七年六月二十二日	樺太工業株式會社	

稼行鑛山ノ操業上ノ設備等ハ前年ト大差ナキヲ以テ之ヲ略ス

大正十年十二月廿七日印刷
大正十年十二月廿九日發行

定價金四圓六拾錢

農商務省鑛山局編纂

發行人 三田尾松太郎
 東京市牛込區加賀町一丁目二十五番地
 東京市芝區愛宕町三丁目二番地
 印刷者 內藤小三郎
 東京市芝區愛宕町三丁目二番地
 印刷所 東洋印刷株式會社
 東京市牛込區加賀町一丁目二十五番地
 發行所 國產時報社
 電話番町七四〇番
 振替東京三三三〇三番

終